

NEWS RELEASE

2023年11月21日

日本豆乳協会

SOY2309

日本豆乳協会

2023年7-9月期における豆乳類の生産量は、104,859 kℓ

～ 無調整豆乳や豆乳飲料は前年を上回り、

豆乳類全体の生産量は、前年同期比 96.4%に ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：山崎 孝一 キックコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2023年7-9月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は104,859 kℓ（前年同期比：96.4%）となりました。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、「豆乳（無調整）」の生産量は33,263 kℓ（103%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,250 kℓ（102.2%）と2つのカテゴリーにおいて、前年を上回り回復傾向にあります。一方で、「調製豆乳」は、50,189 kℓ（94%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、13,477 kℓ（88.3%）となり、前年同期を下回る結果となりました。出荷量においても生産量と同様の傾向を示しています。なお、主に業務用を用途とする「その他」のカテゴリーにおいては、3,678 kℓ（99.6%）とほぼ前年並みとなりました。

社会情勢やエネルギー問題等の外部環境の影響で、あらゆる場面での値上げが相次いでおり、生活者が様々な食品・飲料の買い控えをしています。しかし、7-9月期の豆乳市場においては、生活者の消費マインドの低下、買い控え等が続く中、「豆乳（無調整）」（103%）と「果汁入り豆乳飲料」（102.2%）が堅調な伸びを示しており、消費者の健康意識による豆乳への回帰が見られました。

現状の豆乳市場は、外部環境の変化や価格改定の影響を受けた市場環境ですが、豆乳協会では、食における健康志向は依然として高く、豆乳に対する健康への期待値は大きいと考えています。特に、10月からは豆乳をつかった料理需要も増えることから、生産量の増加が期待されます。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を 4ℓに増加させ（2022 年 3.4ℓ / 総人口 12,500 万人）、年間総生産量を 50 万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和 54 年 9 月 1 日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年 10 月 12 日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル
田中/岩野

メール：vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017